
テラバイト

PLUTO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テラバイト

【Nコード】

N8252L

【作者名】

PLUTO

【あらすじ】

とある太陽系の話である。

その太陽系には、誰かに作り出された、ちょっと余分な惑星があった。

新第一惑星地球 新第二惑星天球 新第三惑星異球

そして、人間たちのくだらない争いによって、

人間の大切な命が奪われることになった。

そしてロボットが開発された。

このロボットにより

人間の物語が変わろうとしている。

現実（前書き）

ここは、絶対に読んでください。
この小説を書いている人は、
何を考えているかが、わかりません。
だからこの小説が変だと思ったら、
すぐに読むのを中断して、
心のケアをしてください。
よろしく願います。

現実

第一話 現実

目が覚めた。

時計を見ると、危険な時間帯を指している。

「久々の遅刻かな？」と呟いてしまった。

急いで着替えて、学校の準備を始めようとしたら、自分に似ている声が聞こえた。

「おい、急がないと遅刻するぞ？」この声の主は、私の兄弟であり双子である。天地勇氣あまちゆうきである。

ちなみに、私の名前は天地元氣あまちげんきである。

「勇氣こそ、今日は、機体の走行テストだろ？」と投げ返した。

「ああ、そうだった。まああんなの余裕でしょ」と自信満々に答えやがった。こいつと俺の頭のパラメータの差は、本当に双子かと疑問に思ってしまうほどである。

そんな会話をしながら、着々と学校の準備をしていた。

「二人とも朝ごはん早く食べなさい。」と母が怒り気味で言ってきた。

「はいはい、分かったよ。」と返事をした。

朝の味噌汁は、素晴らしいなと思いつつ、テレビを見ていた。

「今日、新第二惑星天球からエルフ艦が新第一惑星地球に到着の予定です。和議を結び、戦争終結へ向かうそうです。」ああ多分今日の近代惑星歴史で先生が熱く語ってくれるだろう。

「さあそろそろ行くかな？」勇氣が気だるそうに言って、玄関に向かった。

「頑張つてこいよ、エリート帝京パイロット候補生。」と言ってやった。

「まかしな、普通高校生。」嫌味か？この野郎

「いつてきます、今日も遅くなるから、夜ごはんはいらないから。」

「分かったわ　いつてらっしやい勇氣」

玄関が閉まる音がした。

「なら、母さん　俺もいつてきます。」早くご飯が済んだおかげで今日は、遅刻は心配しなくていいか。

ガチャ

家から出た瞬間、雨の匂いがした。「今日は、曇りのち晴れかな。」なんかこの家から見える山の景色とこの分からない感覚が好きだった。

学校へ近づくにつれて、同じ制服の人たちを見かけるようになる。

「おい、元気っ お前同じクラスの神無月刹那知ってるか？」と同じ学校に通う友人　鳥居正光（とりいまさみつ）がいきなり話しかけてきた。

「あああの根暗美人少女だろ？それがどうした？」

「その根暗ちゃんと仙道つてやつが、こないだ学校であつた、意味が分からない戦闘テストで敵を13機撃墜したらしいぞ」

「えっ？あの機体のコアに乗ってコンピュータシステムと戦うゲームみたいなやつだろ？」（嘘だろ・・・去年の最高が二機のはずだぞ？）

「ああそつだよ先生たちも予想外の事だから、防衛庁と攻撃庁にデータを送ってるらしいぞ」

「で仙道つてやつは、誰だ？」

「そつちを早く突っ込めよ、高校生活始まってから一度も学校に来てないやつだよ、最近登校を始めたらしいぞ」

「なんで？いきなり登校を始めたんだ？怪我でもしてたのか？」

「それが先生も本人も教えてくれないんだよ」

「ちなみに正光は、何機撃墜したの？」

「・・・零です。」かなり暗い顔だった、ちよつと言ったことに後悔した。

「お前こそ何機撃墜したんだよ？てか皆も零だったぞ。」と言いつて返してきた。

「俺は三機だよ。」

「お前なかなか凄いなあ・・・あのテスト平均0、4機だぞ、だけど上には上がいるから目立たないけど」核心をついてきやがった。そんな事を話してるうちに、学校に着いた。

「きりーっつきょうつけっ れい」

「おはようございます」最近この決まった挨拶が面倒になったのは、俺だけか？いやきつと皆も思ってるはずだと考えながら席に着いた瞬間に、

神無月と目が合ってしまった。なんであいつは、俺を見たんだ？なぜ後ろを振り返ったんだ？

まあ勝手な妄想だな、気にしないどこ、

神無月を眺めながら、考え事をしていた、（やっぱり俺みたいな凡人じゃあいつらみたいな天才たちには、勝てないのかな？かなり調子が良かったと思っただのに・・・まあ初めてのテストだけど、まあ考えたら負けだなあよし切り替えよう。）

「これで朝礼を終わります・・・おつとすまないっ今日の放課後うちの学校のグラウンドで国の開発中の機体実験をするから今日は、お前ら早く帰れよ。」

「先生っそれって何時頃から始まるんですか？」と真面目そうな女子が言った。

「・・・確か八時ぐらいだった気がする・・・危ないから絶対学校に近づくなよ。」と先生が怒り気味で説明しクラスを出た。なら学校ですんなよと思いつつ、一時間目の数学の準備をした。

「このように、乗法公式を使えば簡単に解けるから覚えておくように・・・天地その教科の問題解いてみる。」俺かよ・・・俺が妄想に耽ってたからか？まあこの問題なら解けるからいいか。

カリッカリッと黒板にチョークがあたる音がする。なんか黒板に書くど、皆の視線が痛い。これがかの有名な被害妄想かあとそんな下らない事を考えながら問題を解いていた

「先生解きました。」とちよつとクールに決めたけど・・・誰も反応をしなかった・・・このクラスなんか怖いな

「おつ良くてきたな、よしこの問題を解説します。」

こんな感じで授業は続いていった。

いつの間にか、チャイムが鳴り一時間目の授業が終了した。

次の授業は、何かと確認しようとしたら、学校放送が大きく鳴り響いた。「一年一組天地元氣、至急校長室に來なさい。」……えっ？何だ今の放送君は、？

「おいつ元氣行かなくていいのか？てかなんか仕出かしたか？」と鳥居が話しかけてきた。

「いやいや、何もしてないから……多分」

「多分かよ、なら早く行った方がいんじゃない？至急って言ってたし。」

「そつだな、ちよつくら行つてくるよ。」と教室から校長室へと向かった。

階段を閃光のように駆け抜けた。目の前に俺意外の閃光が数本見えた。

「えーっと、諸君らを呼んだ理由は、もう聞かなくても分かつてるはずだ。なあ仙道と神無月。」と静かに問いかけてきた。

「勿論です。」えーっなんで君たち知ってるの？俺知らないよ……仙道つてやつはこいつか。

仙道の特徴は、悪魔と契約したような美形な顔で冷酷な眼差しだった。

「ああそうかあ、天地は何も聞いていないんだっけ？」

「……はい」と正直に答えた。

「まあ君はお釣りみたいな物だから気にしないでいいけど、君たちはこの学校のパイロット候補生になったんだよ。」

「本当ですか？」嬉しかった……これで勇氣と並ぶ事が出来るのだから、

「国からプレゼントがある。TX-05が寄贈されたよ、最新式の機体だから大事に使いなさい。」

「ありがとうございます。」三人で大きく礼をした。

「まあ戦争の怖さ知らない君たちには、危ない玩具だ。もう君たちは、軍の狗だぞ、せいぜい人を殺すがいい。」校長は、重みのある現実を言った。多分校長は、戦争で大事な人を失ったんだろう。だからこんな皮肉を言ったんだろう。

きつとあそこに飾ってある、美しい女性は校長と婚約するはずの大切な人だったんだな。

「おっと今日の放課後TX-05が届くから、今夜は学校に残るように、君たちには、死んで欲しくないが死なない戦争なんて聞いたことがないから、精々頑張りましたまえ未来の殺人鬼たちよ」校長の震えた声が耳に届いた。

校長室を出て、教室に戻る途中、窓ガラスの絵のような景色を眺めつつ怒りに満ち溢れていた。あの校長の言葉が頭から消えなかった。「くそっ去年の最高新記録は、抜いてるはずだぞっなんでお釣りつて言われないといけないんだよ」壁を殴ったちよつと痛かった。

でもパイロット候補には、選ばれたんだ。今から変わればいいんだ。絶対にこのチャンスをつ掴むぞ。

教室に戻ったら、三時間目と四時間目の間の休み時間だった。

「天地君、今日学校終わったら、図書室に来てくれないかな？今さつき仙道君にも話したから、いいかな？」なんかこの上目づかい悪戯に太陽が照らした黒髪が、胸キュンのポイントだった。

勿論OKを出して、席に着いた。

現実（後書き）

この小説を読んでくださり、誠にありがとうございます。
日々精進しがんばりたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8252/>

テラバイト

2010年10月20日19時05分発行